

神戸祇園だより

令和2年2月

No.1 1

神戸市立神戸祇園小学校

<http://www2.kobe-c.ed.jp/kgm-es/>



鬼は鬼でも「良い鬼」

早いもので、暦は2月（如月）にかわります。「如月（きさらぎ）」とは、寒さで着物を更に重ねて着ることから「衣更着」が語源だと言われています。そして、3日が節分で、翌4日が立春になります。

さて、節分に行うのが「豆まき」です。昔は、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられ、それを追い払うために豆まきが行われるようになったと言われています。我が家でも、子供が小さい頃には豆まきを楽しみました。鬼はもちろん想像上の生き物で、昔話などにもよく登場し、人や他の動物を捕まえるととても怖いもので人間に嫌われていました。また、病気や怪我、災難など、人間を不幸にするものの代表にされていました。そのため、節分の日には、鬼の嫌いな豆をまいて、病気や災難を家から追い出し、福を家に呼び寄せたいという気持ちの表れが伝統行事になったのでしょう。

日本には、「桃太郎」や「こぶとりじいさん」に代表されるように鬼の出る昔話がたくさん残っています。また、手つなぎ鬼や増え鬼など、「鬼ごっこ」という鬼の名前がつく遊びもあります。さらに「心を鬼にする」「鬼の居ぬ間に洗濯」等の慣用句もあります。鬼はある意味、私たちの生活に馴染み深い言葉でもあるような気がします。そして、鬼にはもう一つ「良い鬼」の意味もあります。物事に一生懸命がんばる人、人一倍努力をしている人なども「鬼」と言います。「勉強の鬼」「野球の鬼」などです。

今年の節分の日には、災いをもたらす悪い「鬼」や心の弱い「鬼」を追い出し、どんなにつらくとも物事をやり遂げる意思の強さを持った「鬼」になれるように、豆まきを試してみたいでしょうか。神戸祇園の子供たちも、困難なことにも逃げず立ち向かっていける強くて良い鬼になれるよう、「ともに」がんばっていきたいと思います。



教頭 川上 順子

<お知らせ> みんなの学習クラブ

2月4日（火）と25日（火）の15時から15時半まで実施します。参加したい場合は、担任から申込書を受け取り、担任にご提出ください。